レッスン：SPA/No.9

テーマ：多様性

SPA No.9/DOC/PYRM10.KE5/SE

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、聖なる神に抱かれています。

以前のレッスンでは絶対存在の多様性について述べました。この多様性は絶対存在の主な特徴のひとつです；絶対存在はひとつですが、それは多様性というステート（＊状態）にあります。無数の「聖なるモナド」があり、そして各「聖なるモナド」の中における無数のスピリット存在（Spirit Beings）、これが絶対存在であり、これが絶対生（Absolute Life）です。しかし勿論、創造の諸世界には現れとしての生があり、それは始まりも終わりもない神の黙想の結果です。

ですから現れとしての生がありますが、以前述べたように生の主な特徴のひとつは多様性です。そうです、存在の諸世界、生それ自体の諸世界における生には多様性という特徴があります。

生は生の諸世界のなかで “同時に”、どこへでも“多くの場所に”投射することができます。

生は諸宇宙を包含していますが、同時にそれらの諸宇宙の多くの場所で同化されることができるのです。

勿論、私たちにとって「同化」を理解するのはとても困難なことです。というのも、生の現象としての人間には同化はないからです。ですから、存在の諸世界には生それ自体によって現わされた多様性という特徴があります。

それでは人間についてはどうでしょうか？生の現象としての人間は実存の諸世界において多様性を表現しているのでしょうか？

過去に述べたように、生の現象としての人間は無知のなかに取り込まれています；しかし、何が無知のなかに取り込まれているのでしょうか？

意識、現在のパーソナリティーを活性化するスパークです。そして、無知のなかに取り込まれている結果として、ロゴスの質（それは自己実現を現わすために人間のイデアに与えられたもの）であるセルフ・エピグノシスの現れには様々な段階があります。

生の現象は多様性を表現しているでしょうか？そうです、生の現象はこの特質を表現していますが、無知のなかでは意識ではなく無意識的に表現しています；

人間は無知のなかにおいても、そうと気づかずに多様性を表現しているのです。

“意識であるセルフ・エピグノシス”の表現には様々な段階があります。まず初めにいわゆる“本能的意識のセルフ・エピグノシス”があり、次の段階は“潜在意識のセルフ・エピグノシス”、次が“意識的意識のセルフ・エピグノシス”、そして現在のパーソナリティーが表現できる最後の段階は勿論“超意識的意識のセルフ・エピグノシス”です。

ですから、神の似姿を表現しているのではなく、影として、神のアイコンである生の現象としての人間による実存の諸世界には意識のセルフ・エピグノシスの四つの段階、ステージがあります。

しかし、影として、神のアイコンである生の現象としての人間でも、そこには聖なるスパークがあり、現在のパーソナリティーを活性化するのはこの聖なるスパークなのです。

それゆえに、生の現象であっても人間は多様性という特質を現わし、無知の領域から自らを解放していくにつれて多様性が意識的により多く表現されるようになるのです。

過去において、時間・空間のスペース内に意識のセルフ・エピグノシスを投射する能力について述べました。この意識のセルフ・エピグノシスはどのようにして投射されるのでしょうか？

それは単にエーテルを使うことによって投射されるのです。意識のセルフ・エピグノシスがこれらの意味のなかで投射されるためには、エーテルを投射する必要があります。

あるエクササイズにおいては、この現象を練習しました。現在のパーソナリティーがエーテルを使用すると言うとき、私たちはそのバイブレーションに値する必要があります。なぜなら、特定の“場所”に投射するためには、その特定の環境におけるダブルエーテリックのバイブレーションのエーテルを使用しなければならないからです。それによって、空間・時間の意味のなかで意識のセルフ・エピグノシスの投射という現象が生じるのです。

Page2

投射の能力に到達した現在のパーソナリティーは、多様性という特質を完全にではなくてもかなり多く現わしています。

そうです、そのような人は自分の意識のセルフ・エピグノシスを特定のひとつの場所だけでなく、同時に多くの場所に投射することができます。

そして、それら多くの場所で同時に起きていることを、混乱することなく観察することができるのです。

ですから、投射の能力に到達すると、その人は同時に多様性の特質を表現することになります。このようにこの能力を発揮するためには、現在のパーソナリティーは必ずしも現在のパーソナリティーの自己実現のレベルに到達しなくても、非常に高度な

サイコノエティカルな成長レベルに到達していることが必要です。

そのような現在のパーソナリティーは、私たちがサブスタンスと呼んでいるマインドのバイブレーションをマスターしている必要があります。

ご存知のように、サブスタンスはノエティカル体の諸世界のためのものですが、高次ノエティカルではありません。

人間がサブスタンスをマスターするレベルに到達すると、投射能力を現わすことができ、同時に多様性という特質を表現することができます。

この能力を現わしている人はまた、自分の肉体のなかで明確に気づいていながら同時に自分の意識のセルフ・エピグノシスを多くの場所に投射することができますが、スーパーサブスタンスの諸世界に投射することはできません。

実際、意識のセルフ・エピグノシスの投射によってその人は今どの世界を訪れているのでしょうか？物質界およびサイコノエティカルの諸世界ですが、それらの諸世界全部というわけではありません；高次の層を除く、大部分の層と亜層です。

どのサイコノエティカル界でしょうか？この地球のサイコノエティカルな諸世界、および時には月のサイコノエティカル諸世界ですが、それ以外には行けません。人間はその能力によってこのようなサイコノエティカルの諸世界を訪れることができます。勿論、好奇心のために訪れるのではなく、助けを提供するためです。

それでは、現在のパーソナリティーの自己実現のレベルに到達した人間、つまり現在のパーソナリティーの諸体をマスターした人間、スーパーサブスタンスを含めマインドの全てのバイブレーションをマスターした人間の場合はどうでしょうか？

ご存知のように、あらゆる天体（＊星）はマインドのそれらのバイブレーションのなかで遊泳しています。**現れのこの状態に到達した人間にはどのような能力が与えられるのでしょうか？**

エクソマトシス、つまり肉体から離れてサイコノエティカル体を使用する能力です。意識のセルフ・エピグノシスの大部分はサイコノエティカル体に送られ、ほんの僅かな意識のスパークだけが肉体に残されます。

大部分の意識がサイコノエティカル体に送られる理由は、そのパーソナリティーが生（Life）のスパークと超意識的に結びつき、物質（matter）と呼ぶマインドのこれらのバイブレーションのなかに留まりながら、しかも同時にサイコノエティカル諸世界のあらゆるバイブレーションをも訪れることができるためです。

多様性の特質についてはどうでしょうか、そのパーソナリティーは今や何を現わすことができるのでしょうか？現在のパーソナリティーは同一のサイコノエティカル体をいくつでも必要なだけ作り、現わすことができます。そしてマインドのあらゆるバイブレーションのなかで助けが必要なときには、必要な助けを提供します。

Page3

これら二つの体には違いがあるのでしょうか？オリジナルのサイコノエティカル体とそれと同一の別のサイコノエティカル体との間の違いを見分けることができるのでしょうか？

ひとつは現在のパーソナリティーによって築かれており、もうひとつは実際、“魂のセルフ・エピグノシス”と同じである“永遠のパーソナリティー”によって築かれています。実際のところ、両者の間に違いは全くありません。もし誰かが両方のサイコノエティカル体を同時に観察したとしても、違いを見つけることはできません。

肉体とサイコノエティカル体を常に結び付けているシルバーコードについてはどうでしょうか？同一のサイコノエティカル体もシルバーコードでつながっているのでしょうか？もしそうなら、オリジナルのサイコノエティカル体はどうなるのでしょうか？

同一のサイコノエティカル体が築かれた瞬間から、その同一体は自動的にオリジナル体と同様にシルバーコードで肉体と結ばれます。

同一体とオリジナルの体も同じで、違いはありません。勿論それらは両方ともその現在のパーソナリティーの素質的可能性のなかで、そして（魂のセルフ・エピグノシスの諸世界ではなく）実存の諸世界において生の特質を完全に表現しています。

そのパーソナリティーはどれほど多くの同一体を築くことができるのでしょうか？必要なだけいくつでも作ることができ、それら全ての同一体は唯一つの目的のために作られます。その目的とは同胞の人間を助け、抱きしめ、愛と奉仕を提供するためです。一つの同一体は物質世界で、もう一つの同一体はサイコノエティカルの諸世界における特定の層あるいは亜層のなかで、そして別のもう一つの同一体は例えば別の層、亜層で働くかもしれません。あるいは、多くの体が物質界で、そして他の多くがサイコノエティカル諸世界の様々な層あるいは亜層で働くかもしれません。

そのような現在のパーソナリティーは他の惑星をも訪れることができるのでしょうか？前に述べたように、あらゆる天体はスーパーサブスタンスのなかを泳いでいます。現在のパーソナリティーには三つの体があり、背後に残される肉体は眠った状態に置かれます；というのも、エクソマトシスという現象を行うためには、肉体は眠りの状態にある必要があり、意識のセルフ・エピグノシスの微細なスパークだけが背後に残されて、肉体を生かしておくために必要な機能を果たします。勿論、サイコノエティカル体が肉体から非常に近いところにある間は、肉体をある程度目覚めた状態に保つこともできますが、ある程度サイコノエティカル体との距離が離れると、肉体は眠りに入る必要があります。

そのような現在のパーソナリティーはエクソマトシスという現象によってどこに行くことができるのでしょうか？このような能力に到達すると、現在のパーソナリティーは表現されている地球のあらゆる世界を訪れることができ、特定の期間だけでなくいつでも月を訪れることができます。

しかし、幽体離脱（projection）とエクソマトシスにはなぜ違いがあるのでしょうか？その理由は、あなたが意識のセルフ・エピグノシスを投射している間、あなたは超物質のバイブレーションをサブスタンスのバイブレーションに同化させることができません。そのパーソナリティーはまだそのような能力に到達していません。もうご存知だと思いますが、地球のサイコノエティカルあるいはサイキカル体は、ある特定の時期を除いて、月のサイキカル体とつながっています。それゆえに、ある人が幽体離脱をして月のサイコノエティカル諸世界を訪れようとする場合、ある特定の時期に限ってそれが可能となるのです。しかし、**エクソマトシスの場合、人は自由にサイキカル体をノエティカル体と同化させることができるので、その人はいつでも月を訪れたり、私たちの太陽系あるいは銀河系をいつでも訪れることができるのです。**

ですから、そのパーソナリティーはサイキカル体をノエティカル体と同化させることができます。しかし、ノエティカル体は今やサブスタンスのみならずスーパーサブスタンスのバイブレーションを帯びており、そのようにしてパーソナリティーは例えば火星のサイコノエティカル諸世界に入ることができるのです。

そして、そこでサイキカル体のバイブレーションを低め、サイコノエティカル体を通じて自分を現わすことができます。サイキカル体あるいはノエティカル体だけでなく、サイコノエティカル体です。そして、もしパーソナリティーが望めば、意識のセルフ・エピグノシスをさらに低め、その特定の惑星の四つのエレメントを使って（その惑星の質は地球の質とは違うかもしれません）肉体を創造することもできます。

**そして、この地球あるいは他のどんな惑星に属する現在のパーソナリティーでも、肉体をまとって特定の惑星でそれ自身を現すことができるのです。**

Page4

**この地球上の現在のパーソナリティーが物質のバイブレーションをも含む多くの同一体を築き、それら一つ一つの同一体が特定の仕事のために奉仕するとき；それらの同一体はお互いに他の同一体が何をしているかを知っている、あるいは気づいているのでしょうか？知るという問題ではありません、それは内側から来ることです。実際、そのモナドが現わしていることは、全て意識的にではなく超意識的に自動的に全部にわかります。**

一つの同一体がそのやるべき仕事を終了したとき、その同一体はどうなるのでしょうか？自動的にその同一体は残っている他の全ての同一体に同化し、同じことは他の残っている同一体にも起こります。

もはやエクソマトシスが必要ないときはどうなるのでしょうか？例えば、10の同一体があり、それら全てがやるべき仕事を終えたとき、どの同一体が（なぜなら、それら全てが同一体でオリジナルはないので）ブレーシス（＊神の意思）を表現し、全ての同一体が戻るようにするのでしょうか？ブレーシスは全ての同一体が同時に現わします。なぜなら、前にも述べたようにそれらは全てつながっており、それら全ては同時に別々に仕事をするにもかかわらずそれらの意識のセルフ・エピグノシスは一つだからです。ですから、10の同一体が自動的に再び一つに戻り、その一つが肉体に戻るのです。

**それらは別々に、個別に肉体に戻るのではなく、一緒になり、一つになって、シルバーコードに引かれてサイコノエティカル体は肉体に戻ります。**

さて、エーテル界、エーテル・バイタリティー、エーテルについて述べ、また以前、現在のパーソナリティーが肉体的死という現象に伴い現世のバイブレーションを離れるとき、エーテル界を通過すると述べました。それは別のエーテル界があることを意味するのでしょうか？もしそうなら、そのエーテルはマインドのどのようなバイブレーションなのでしょうか？

**私たちにはもう一つの体、四つ目の体、エーテル体があるのでしょうか？違います。現在のパーソナリティーがエーテル界に入るというとき、それはサイコノエティカルの諸世界に入るために通る領域であり、現在のパーソナリティーがサイコノエティカル体と共に物質界のバイブレーションの中にしばらく留まることを意味します。**

ですから、サイコノエティカル体と共に物質のなかに留まるのですが、そうするために現在のパーソナリティーは物質のダブル・エーテリックからエネルギーを吸収します。そして、もしそのパーソナリティーが物質を通じて、つまり肉体を通じて自らを現わしているパーソナリティーとコンタクトしたいと望むなら、その時その（＊肉体を去った）パーソナリティーは現世のバイブレーションのなかで生きている特定のパーソナリティーからエネルギーを吸収する必要があります。それゆえに、私たちはそのような現れの状態をエーテル界と呼ぶのです。

エーテルは物質のダブル・エーテリックのバイブレーションであり、それゆえに私たちはそのようなパーソナリティーが現世のバイブレーションに留まることを良しとしないのです。それは留まろうとするそのパーソナリティーのためでもあり、また物質界で生きている全ての人間のためでもあります。それゆえに、（＊肉体を持たない）パーソナリティーたちを現世のバイブレーションのなかに連れて来ようとするのは間違っているのです。というのも、彼らが“この下界”に来るためには、彼らは物質界のダブルエーテリックからエーテル・バイタリティーを吸収しなければならず、特に特定の人間の肉体のダブルエーテリックを吸収するからです。それのみならず、同時に他のバイブレーションから来たそのパーソナリティーとコンタクトしようとする多くの人々からも吸収します。

そのような理由から、私たちは霊媒によるスピリチュアリズムを良しとしないのです。もし誰かがこのようなセッションを行うとき、そのセッションに参加する大部分の人々が会の終わると一般にエネルギー失ってしまうのはそのためです。

**高く成長、進化したパーソナリティーなら誰も、このようにして自らを現わし、他人のエネルギーを吸収することによって肉体に入ろうとはしません。通常、このようにして自分を現わそうとするパーソナリティーは非常に低いバイブレーションの持ち主で、一時的にエーテル界に生きているか、あるいは自らをそこで表現しているのです。**

確かに、低いバイブレーションのパーソナリティーたちが行く場所として月があります。何故でしょうか？癒されるため、助けを得るためです。しかし、月に行くためには地球のサイキカル体と月のサイキカル体がつながるまで待つ必要があり、その時はじめてそれらのパーソナリティーたちは月に行かれるのです。通常、このつながりができるまで、彼らは助けられて眠ります。

Page5

しかし、他のパーソナリティーたちは人間あるいは動物の肉体を通じて自らを現わそうとし、その結果テンカンという現象や高熱による痙攣発作などが生じます。これは通常、子供または赤ん坊に生じます。これらの実体、これらのパーソナリティーは肉体に入ろうとします。というのも、彼らは地、土にフォーカスしている非常に低次のバイブレーションを帯びた実体、パーソナリティーだからです。勿論、彼らがそうすることは不可能です。彼らが肉体を支配することはできません。痙攣発作は現在のパーソナリティーが侵入者を振り払おうとする行為なのです。

何故彼らは肉体を捕らえることができないのでしょうか？彼らは“死人”の肉体さえ捕らえることができません。そこ（＊死体）にもまだダブルエーテリックはあります。それはつまり、（＊死んだ）肉体はまだ分解しておらず、無傷なままです。

それなのに何故それらのパーソナリティーは肉体を支配することができないのでしょうか？肉体を支配するためには、その特定のパーソナリティーのダブルエーテリックと同じバイブレーションで振動している必要があります。しかし、各パーソナリティーに属する肉体のダブルエーテリックにはそれ自身の独自性、それ自身のバイブレーション、それ自身のカラーがあります；その独自性（identity、アイデンティティー）は思考・行動の仕方の結果です。それゆえに、事実彼らの試みは成功しないのですが、それは経験となります。ですから、実際には物質界に属するエーテル界があり、自らを現世のバイブレーションのなかで現わそうとするパーソナリティーは物質のダブルエーテリックからエネルギーを吸収しなければならないのです。

ですから、存在の諸世界には絶対存在の多様性があり、生それ自体としての生の多様性があり、また実存の諸世界には生の現象としての生の多様性があります。しかし、エーテル界においては、そこで自らを表現しているパーソナリティーにとって多様性は現れていません。

私たちが愛する人を失い、その愛する人が自分のすぐ近くにいると感じるときには、私たちは今やその人たちが属する世界に入っていくようにと言う必要があります。（亡くなった）それらの人々が現世のバイブレーションのなかに留まるようにさせるべきではありません。

なぜなら、私たちは生前彼らを愛し、そして今でも愛しているのですから。彼らのために、そして現世のバイブレーションのなかで生きている私たち自身の家族のためにも、私たちはそうすべきです。

質問：助けを与えられる人もいれば、なかには肉体に侵入しようとする人もいるということですが、月を訪れるときが来るまで待つことができるように、なぜ彼ら全員が助けを与えられ、眠りに入るようにされないのでしょうか？

Ｋ：目に見えないヘルパーたちは全員が眠りにつくように努力していますが、しかしそれは原因・結果の法則のゆえに必ずしも許されるわけではありません。その理由は経験を与え、経験するためです。

眠りに入る人々もいるというとき、それらの人々は非常に多数です。そしてまた非常に多くの人々は留まって、動き回っています。エーテルのバイブレーションの中に留まっている人々は自分が肉体を持っていないことに気づいていないのです。彼らは自分がまだ物質界にいるという幻想を抱いており、その幻想のゆえに、そして物質に強くフォーカスしているがゆえに、物質のなかで表現する法則が自動的に、彼らをつながりが緩んでいる人間に同調させ、その結果、憑依することになるのです。そのために、誰かが肉体への侵入の可能性を許すような状態を現わしているときには、そのような人間への侵入を試みようとするのです。それに対する拒絶が痙攣、そしてテンカンという現象として生じるのです。

私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

EREVNA/SPA09/P10/K5/DOC